

## 箱根町の箱根ソーラン座 役場を表敬訪問

6月13日姉妹都市の箱根町から群舞・箱根ソーラン座（安藤貴代子座長）のメンバーが、役場を訪れ、箱根の伝統工芸である寄木細工で作った特製鳴子を町に寄贈しました。

箱根ソーラン座は、北海道のよさこいソーランを「箱根町の活性化に役立てよう」と結成された団体で、現在50人ほどのメンバーが町内外で活動しています。今回は、本場のよさこいソーラン祭りを視察するために代表らが来道し、町を表敬訪問したものの、安藤座長は「将来はこの特製

鳴子を持ってよさこいに出場したい」と話していました。



特製鳴子を手交し、交流を深める

## 楽しく歩きながら郷土の歴史を学ぶ

5回目を迎えたあぶた史跡めぐりウォークラリー（健康づくり推進員会、虻田町教育委員会共催）が、6月11日行われ、参加した約50人が、健康増進と史跡めぐりを結びつけたイベントを楽しみました。

当日のコースは、役場を出発し虻田神社、虻田尋常小学校跡、発電所タンク、虻田遊郭跡、亮昌寺、ふれ合いセンターを回って役場に戻る約5kmのみちのり。参加者は、チェックポイントで、スタンプを押してもらい、コースを楽しみながら、郷土の歴史を学びました。



亮昌寺で説明を聞く参加者

## まちのわだい

## お年よりもイキイキ 「ふれあい交流会」は笑顔がいっぱい

人暮らしのお年寄りを対象にした「ふれあい交流会」（主催 虻田町社会福祉協議会）が、今年も5月から始まっていて、



大きなサルノコシカケにびっくり！

お年寄りに好評を博しています。毎週水曜日に開かれる会では、ストレッチ体操やレクリエーションゲームなどを楽しみ、昼食を食べて終了。

6月15日の例会では、池田捷枝さんが、直径40cmほどもある大きなサルノコシカケを持ち寄り、この話題で持ち切りでした。現在社会福祉協議会（☎76-4363）では、この会をサポートするボランティアの登録を呼びかけています。送迎や食事の支度など、お年寄りが笑顔で過ごせるためのお手伝いをしてみませんか。

## 左手一本で描いた絵画展 約80点の水彩画展示



自らの作品の前に立つ三浦孝志さん

三浦孝志さん（6区）の絵画展が、6月13日から2週間、役場ロビーで開催されました。9年前に脳出血で、右半身ま

ひと失語症になった三浦さんが、リハビリを兼ねて絵を描き出すきっかけとなったのは、2000年の有珠山噴火の避難生活。避難生活の不安定な気持ちを紛らすため、もともと絵が好きだったことから自ら筆を持つことになりました。

今回の作品展では、この5年間に左手一本で描き続けてきた約150点の中から80点ほどを展示。急須や鉄瓶、野菜や花などどれも人柄をあらわすように、ほのぼのとして温かいタッチの作品です。